第１１回 ILERA アジア地域会議 開会式（2026 年 9 月 3 日　法政大学薩埵ホール）

佐藤厚
日本労使関係研究協会会長・組織委員会会長

開会の挨拶

皆様、本日は第 11 回 ILERA アジア地域会議にご参集賜り、誠にありがとうございます。ILERA アジア地域会議組織委員会ならびに日本労使関係研究協会（JIRRA）を代表し、皆様を心より歓迎申し上げます。

はじめに、ILERA を代表してご臨席を賜りました会長の Rae Cooper 先生に、心より御礼申し上げます。また、アジア地域をはじめ世界各地より本会議にご参加くださった皆様に、主催者を代表して深く感謝申し上げます。

本会議には、研究者のみならず、労働組合関係者、使用者団体関係者、政策担当者、実務家など、多様な立場の皆様にご参加いただいております。参加登録は 33 の国・地域から約 400 名にのぼり、本会議に寄せられた大きな関心と期待を、主催者として大変心強く受け止めております。このように、多様な背景と経験を持つ方々が一堂に会すること自体が、本会議の大きな意義であると存じます。

本会議の全体テーマは、

“Challenges in the New World of Work: How Should We Respond to Emerging Technologies?”

であります。

今日、私たちは大きな変化のただ中にあります。デジタル化や AI の急速な進展は、仕事の進め方や生産性、組織運営のあり方に新たな可能性をもたらす一方で、雇用の質、技能形成、プライバシー、格差の拡大、さらには労使関係そのもののあり方にまで、深い問いを投げかけています。また、こうした技術変化は、人口構造の変化、働き方の多様化、国際労働移動の拡大、社会保障制度の再構築といった、現代社会が直面する他の重要課題とも複雑に交差しています。

その意味で、本会議のテーマは、単に新しい技術への対応を論じるにとどまりません。新しい働く世界のもとで、雇用の質をいかに守り、高めていくのか。労使関係はいかにあるべきか。社会的対話はいかなる役割を果たし得るのか。さらには、包摂性と公正をどのように確保していくのか。こうした、私たちに共通する根本的な問いに向き合うものであります。

この問題意識のもと、本会議では多彩なプログラムを用意しております。今回は、11 件の特別セッションに加え、Track セッションとして 105 件の口頭発表、13 件のポスター発表が予定されております。これらは、アジア地域をはじめ各国における労使関係研究の広がりと厚みを示すものであると同時に、労働と雇用をめぐる諸課題が、国や地域

を越えて広く共有されていることを物語るものでもあります。

とりわけ、本会議では5つのトラックを設けております。

第1のトラックは、Work and Institutions Reshaped by AI and Technology です。AIとテクノロジーによって再編される仕事と制度を扱い、労働市場、労働法、人事管理、労使関係、さらには研究方法の変化に至るまで、技術革新の影響を多面的に検討します。

第2のトラックは、Demographic Shifts and Labor、すなわち人口動態の変化と労働です。高齢化、世代間関係、年齢差別、介護と就労の両立など、人口構造の変容が労働と産業関係に与える影響を考察します。

第3のトラックは、Globalization and International Labor Migration です。外国人労働者の受け入れと保護、包摂と統合、送り出し国と受け入れ国双方への影響を視野に入れて、議論を深めます。

第4のトラックは、Overcoming Inequality: Toward Diversity, Equity, and Inclusion through Interdisciplinary Approaches です。不平等の克服と、多様性・公平性・包摂性の実現に向けて、年齢、性別、性的指向、人種、障害、雇用形態の違いなどに由来する格差を、学際的な視点から捉え直します。

そして、第5のトラックは、The Welfare State: The Role of the State in Market Competition です。福祉国家と市場競争における国家の役割を問い、労働法の執行、最低賃金、社会保障、失業者支援、安全衛生、少子化対策などを通じて、国家と市場の関係を改めて考えるものです。

加えて、開会式に続いて、基調講演ならびに全体会（Plenary）が予定されております。会議全体の問題意識を共有し、今後の議論の視座を広げる貴重な機会となるものと存じます。また、明日、明後日には、日本経済団体連合会および日本労働組合総連合会による特別講演も予定されております。わが国を代表する労使双方の立場から、現代の労働と雇用をめぐる課題について直接お話をうかがえることは、本会議にとって誠に意義深く、学術的議論と実務的視点とを架橋するうえでも、大変貴重な機会になるものと期待しております。

このように、本会議は、技術革新、人口変動、国際移動、不平等、そして制度の再設計という、現代の労働社会が直面する諸課題を、分野横断的かつ国際的な視野から議論する場として構成されております。

そして、まさにその点にこそ、本会議の意義があります。

これらの課題は、いずれも一国の経験や一つの専門領域のみで解決できるものではありません。学術的知見と実務的経験とを結びつけ、国境を越えて率直に議論し、相互に学び合うことが不可欠です。研究者、労働組合関係者、使用者団体関係者、政策担当者、実務家が同じ場に集い、それぞれの視点を交わすことによってこそ、より深い理解と実践的な示唆が得られるものと考えます。

ILERA の果たす役割も、まさにそこにあります。労使関係研究は、単なる学問的関心にとどまるものではなく、人々がいかに働き、いかに尊厳を保ち、いかに社会の中で包摂されるかという、きわめて公共的な問いに向き合う営みであります。本会議が、知見の共有にとどまらず、新たな視座を得る場となり、さらには将来に向けた協力関係を築く契機となることを、心より願っております。

本会議の開催にあたり、ご後援を賜りました厚生労働省、日本労働組合総連合会、日本経済団体連合会の関係者の皆様、特別セッションおよび Track セッションにご登壇、ご報告くださる皆様に、深く感謝申し上げます。

あわせて、充実した学術プログラムの編成にご尽力くださったプログラム委員会の皆様、そして準備・運営に多大なるご尽力をいただいた労働政策研究・研修機構ならびに関係者の皆様に、改めて深く御礼申し上げます。

本会議が、参加者の皆様にとって実り多い学びと対話の場となり、新たな発見と国際的連携の契機となることを切に願っております。そして、ここで交わされる議論が、アジア地域ひいては世界における労使関係の発展と、より公正で包摂的かつ持続可能な社会の実現に資することを、心より祈念いたします。

皆様の積極的なご参加のもと、本会議が成功裡に結実することを願い、開会のご挨拶といたします。

ありがとうございました。